和漢薬研究所の概要（研究部門と各分野の研究目的）

2003.7 現在

部門・附属センター・寄付部門	研究分野と研究目的
1．資源開発研究部門 Department of Medicinal Resources 教　授　谿　忠人 教　授　門田重利 教　授　服部征雄 助教授　手塚康弘 助教授　横澤隆子 助　手　山路誠一 助　手　A.H.Banskota 助　手　宮代博継 技　官　中村憲夫	**漢方薬学分野：Pharmacognosy** 漢方薬の資源と来源と経験知（薬能と用薬規範）を検証し，現代医療における価値を創造する漢方薬材学，漢方医薬史学，漢方薬剤学，漢方医療情報研究。 **化学応用分野：Natural Products Chemistry** 和漢薬及びそれに関連する動植物の生理活性成分の分離，構造解析を行うとともに，それらの有効成分の化学的合成法を開発研究し，さらに化学構造と生理活性との相関関係を究明。 **薬物代謝工学分野：Metabolic Engineering** 和漢薬の薬効発現に関与する腸内細菌およびその遺伝子の解明。抗エイズ，抗C型肝炎ウイルス薬の開発研究。担子菌類の薬効評価。腎疾患における病態の解明と腎臓病治療薬の開発。
2．病態制御研究部門 Department of Bioscience 教　授　渡邉裕司 教　授　済木育夫 （客）教　授　奥山治美 助教授　松本欣三 助教授　櫻井宏明 助　手　東田道久 助　手　小泉桂一 技　官　村上孝寿 技　官	**生物試験分野：Pharmacology** 和漢薬の薬効を計量薬理学的に評価する新しい方法の確立，それによる作用機序の解明と作用本体の追究を行う。 **病態生化学分野：Pathogenic Biochemistry** 和漢薬効果に対応する体質（遺伝的要因）ならびに病態に対する和漢薬の効果を遺伝学，生化学，分子生物学ならびに免疫学など多面的に解析する。 **恒常性機能解析分野（客員）：Analysis of Homeostasis** 菜種油に含まれる脂溶性微量有害成分にはネズミの寿命を短縮する物質があるが，その成分は未だ同定されていない。そこでその成分を検索する。
3．臨床科学研究部門 Department of Clinical Science 教　授　浜崎智仁 助教授　渡辺志朗 助　手　長澤哲郎	**臨床利用分野：Clinical Application** 天然薬物（特に魚油中のEPA，DHA）の作用機序の解明とその臨床利用。
4．附属薬効解析センター ｾﾝﾀｰ長　小松かつ子 助教授　小松かつ子 助　手　東田千尋 （客）教　授　鄒　坤 （客）助教授　Unnikrishnan Payyappallimana	**Research Center for Ethnomedicines** 民族薬物資料館に保管される生薬についてデータベースを構築しそれらの薬物の品質並びに薬効に関する研究を通じて世界の民族薬の標準化を図る。
5．漢方診断学部門（寄） （寄）教　授　柴原直利 （寄）助教授　後藤博三 （寄）助教授　酒井伸也 （寄）助　手　趙　恩珠	**Kampo Diagnostics** 経験が重視される漢方医学固有の診断体系を基礎的および臨床的研究により客観化するとともに普遍的な教育カリキュラムを確立する。

（客）：客員；（寄）：寄付部門